



蘇る、蒲生の自然

蒲生干潟と海浜

6月号

野鳥はどこに？ 静かな蒲生干潟 (6月上旬の蒲生干潟)



シギなどの渡り鳥も旅立ち、蒲生干潟はひっそりとしていました。ウミネコやサギが時折飛来してきます。耳を澄ますと、オオヨシキリやヒバリの囀りが聴こえてきます。

アシの群落と干潟の間の淡い緑地



干潮時のアシ原周辺 (堤防から)



干潮時のアシ原周辺 (干潟から)



満潮時のアシ原周辺



湿地帯に生い茂るアシは川辺でよく見かけます。ここでは、潮位の変化によって海水に浸るところにも植物が生えています。蒲生海岸ではその面積が最大です。まもなく生長して、緑鮮やかになるころには植物名もはっきりすることでしょう。

右の写真には、仙台新港を出港したばかりの大型貨物船が写っています。古からの自然の海岸風景の中に現代を垣間見ることができます。



咲きほこるハマヒルガオ



ハマヒルガオの群落



咲き微笑むハマヒルガオ



ハマニンクの中にも



コウボウムギの中にも



ハマエンドウの中にも



花の下を 5cm ほど掘ると



ハマヒルガオの地下茎



6月になるとハマヒルガオが広いエリアにピンクの花を咲かせています。それも、ハマニンクやコウボウムギ、そしてハマエンドウの紫の花の中に、たくさん咲いています。どうしてそういうことが起きるのか「わたしたちの中野」で調べてみました。上の図のように、ハマヒルガオは砂の中に地下茎を、はわせていることが分かります。右の写真は、現地（蒲生の海浜）で確かめたハマヒルガオの砂の中の地下茎です。

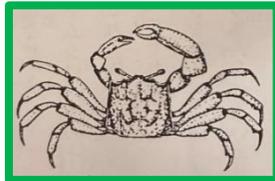
蒲生干潟に棲むカニ



干潮時の干潟では、たくさんのカニを見つけることができます。今回は？種ほどのカニを見つけました。□の中のカニは、蒲生干潟に棲むカニです。見つけたカニは何カニでしょうか？



ヒライソガニ



スナガニ (甲の幅約 3 cm)



アシハラガニ (甲の幅約 3~4 cm)

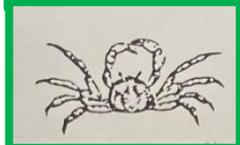


チコガニ (甲の幅約 1 cm)

甲が平らで
色変わりが多い



アカテガニ (甲の幅約 3.5 cm)



コメツキガニ (甲の幅約 1 cm)



ヤマトオサガニ (甲の幅約 3 cm)



クロベンケイガニ (甲の幅約 4 cm)

正答率は約 60% !



アシハラガニ



チコガニ



コメツキガニ



アシハラガニは、葦原に生息しています。他の同程度の大きさのカニも葦原付近に生息しています。種をはっきりと断定できません。正答率は 60% としておきます。

チコガニとコメツキガニは、どちらも甲の幅が約 1cm です。干潟で見たカニは確かに甲の幅が約 1cm でしたが見分けが付きません。また、チコガニもコメツキガニもダンスをするカニとしても有名です。2つのハサミを上下に動かしながら踊ります。干潟で見たカニもその動きをしていました。このカニはコメツキガニと思いますが、自信がないので正答率は 60% にしておきます。

コメツキガニであればそのダンスは「求愛ダンス」として知られています。つつい見とれてしまいます。



コメツキガニの求愛ダンス



蒲生干潟に棲む貝



フトヘナタリガイ



ウミニナ

干潟の海水域に生息しています。色は変色するそうなので、形からでないと分かりません。どちらも同じような形ですので正答率は 50% です。

干潟に生息するカニの中で小さいカニは、集団で行動しています。近づくと一斉に巣の中へ逃げ込みます。大きなカニは単独で行動していることもあり、近づいてもその場を離れず、立ち向かうこともあります。静かな干潟の中で見られる生態系の一端です。秋にはまた、シギ達が訪れます。

それぞれのカニの動きは動画で紹介します。求愛ダンスは必見です。

驚き！シラサギ（白鷺）の繁殖地



蒲生干潟のシラサギ



砂押川のサギ（多賀城市）

2020年12月撮影



アオサギ(体長 90cm)



いつも干潟には、シラサギが数羽飛来しています。シラサギの種は右のように3種です。その識別はたいへん難しいです。隣接する多賀城市の砂押川には、冬も飛来します。シラサギは夏鳥とも留鳥ともいわれています。今は繁殖期です。そのコロニー（繁殖地）はどこでしょうか？



ダイサギ(体長 89cm)



チュウサギ(体長 68cm)



コサギ(体長 60cm)

そこは、キンピール仙台工場の敷地内の林の中



シラサギのコロニー



雛を育てるコサギ?



コサギ(体長 60cm)



このコロニーにいるシラスギは、嘴の色を見るとコサギのようです。150羽ほどが生息しています。ここから餌を求めて干潟などへ飛んでいくようです。



ゴイサギのコロニー



ゴイサギ



ゴイサギの雛



コサギ?のコロニーの隣の樹木には、ゴイサギのコロニーもあります。巣が15ほど見られます。

コサギ?とゴイサギは、種ごとに集団でコロニーを形成しているようです。

冬場もここをコロニーとして生息しているのでしょうか?生息していれば留鳥といえそうです。

それぞれのコロニーの様子は動画で紹介します。